

1. 淡路島ゼロイチコンソーシアムおよび淡路島クエストカレッジについて
2. 地域と地域をつなぐ取り組み「洲本木匠塾」について
3. 約2年間取り組む中で感じる課題感

淡路島ゼロイチコンソーシアム

2021年9月に設立、産官民学金連携プロジェクト

目的とビジョン

「若者が地方で働くことに憧れを抱くきっかけづくり」を掲げ、
島内外の多様なプレイヤーが連携して、淡路島での事業創出や関係人口の増加を目指す

- ・ 社会性のあるテーマに沿ったプロジェクトを立ち上げ、各専門家が伴走して事業を推進
- ・ 現在6社が参画している
- ・ 民間企業と連携し、域学連携の取り組みを深化

→ 洲本市で10年続いてきた「域学連携」のさらなるステップアップを見据え、
淡路島クエストカレッジを立ち上げ

淡路島ゼロイチコンソーシアムとは

淡路島クエストカレッジ

2023年4月スタート

目的とビジョン

冒険する「**地域**」と冒険する「**人**」を育てる

淡路島・洲本市を舞台に、

大学生や若手社会人が地域課題に挑戦する実践型の学びの場。

参加者は、未知なる世界で、新しい価値観を知ったり、自身の能力に気づく
地域も取り組みを通して、事業促進や課題解決に繋がるヒントを得る



淡路島クエストカレッジとは



人との出会いを通じて得られる、新しい価値観

ともに冒険するチームメイトから、地域の冒険人から、地元の人からなど、淡路島クエストカレッジでは、人との出会いを通じた学びを重視。所属している大学や企業の枠を超えた環境に飛び込むことで、「今後どう働き、どう生きるのか」を考えるきっかけにも。



実践活動を通じた、チームワーク力

チームで活動することで、1人では達成困難な目標にも挑戦。自身の得手・不得手に気づき、考えやスキルを補完し合える関係性になることが重要。はじめましてでも安心できるよう、チーム力を高めるステップを踏みながら活動に取り組み、プログラムを終える頃には、今後も支えあい、刺激しあえる仲間に。



「島」ならではの、刺激と経験

海や山などの自然、見上げると美しい星空、自然とともに生きる生産者の方々、人との距離感の近さ・あたたかさなど、淡路島には「島」ならではの魅力がたくさん。プログラムが終了してからも、淡路島に関わり続ける過去参加者も。学びと掛け合わせることで得られる出会いと刺激、経験がここにあります。

淡路島クエストカレッジとは

クエストカレッジの体制図



淡路島クエストカレッジとは



淡路島ゼロイチ
コンソーシアム



洲本市域おこし協力隊
藤田 美沙子



洲本市地域活性化起業人
(株)ワークアカデミー
重乃 遼子



プログラム実施日	参加人数	内容
2024年4月11日	22人	淡路信用金庫新入社員研修 洲本市街地の活性化を考えるプログラム
2024年6月1日	48人	龍谷大学スタディツアー 「海洋ごみ削減プロジェクト」さんぽdeごみ拾い体験、課題解決 提案プログラム
2024年9月18日～ 11月27日	11人	シェアホースアイランドファンづくりのためのイベント企画・ 運営 プログラム
2024年11月2日～ 12月14日	24人 (うち6名一般募集)	インバウンド観光企画提案プログラム (一般募集1名) 洲本市へのインバウンド観光客誘致に向けた企画提案
2025年2月13日～ 3月18日	6人 (うち1名一般募集)	地元企業 (森の木ファーム株式会社) の 事業インタビュー&コラム化プログラム
2025年3月15日	9人	地質学モニターツアープログラム
現在募集中	5名予定	淡路島カレッジ事務局サポーター

今年度はのべ120人が参加、2023年度と合わせてのべ356人が洲本市に関わっている



2023年4月10日実施
地域活性化を考える研修（フィールドワーク）

◆ 当初の目的

- ・ 地域の課題、資源を体感し、地域への貢献を考えさせる。
- ・ 信用金庫人としてのこれからのキャリアを考えさせる。
- ・ 同期入庫職員間の関係構築（チームビルディング）

◆ 研修実施内容・結果

5グループに分かれて洲本市街地での散策や地元の方々へのヒアリングを通じて得た情報を基に地域活性化案を検討。各班ともに話し合いの上、個性的な立案（別紙）を行い、関係者の前でプレゼンテーションした。各案に対してはコーディネーターの（株）シマトワークス、当金庫役職員からフィードバックを実施、新入職員は事後に本件の体験レポートを作成した。また本研修については神戸新聞（淡路欄）、ニッキンにも掲載された。

◆ 研修実施による効果（人事部所見）

実際の街を見て歩き、生の声を聴くという本研修の進め方は新入職員にとって、これから自分たちが働くフィールドを体感する大きな機会となった。「だんしん」という看板を通じて行われたこの取組みが違和感なく街の方々に受け入れられていたことも地域における信用金庫の存在の大きさを感じる一助となっていたようだ。各班で発表された案は全てが実現可能性が高いとは言えないものの、彼らにとってその立案に至るまでのプロセスは大変有意義であったと感じる。とりわけ街の方々へのヒアリングにおいては、こちらの想定を上回る積極性を発揮した。課題を挙げるとすれば研修効果が一時的なものになる可能性が高いことである。立案されたものから一つを選び、企画書作成から提案まで繋げるようなフォロー部分があればより当初に期待した効果を得やすいと考える。

その点を検討の上、2024年度も同形式での実施を検討したい。

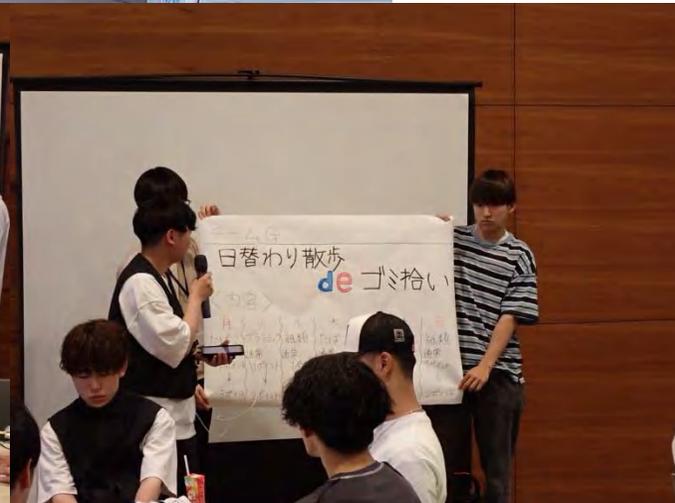
【新入職員のレポートより抜粋】

- ・ 地域の問題点は実際に足を運び体感し、意見交換しなければ解決案は生まれなかったと感じた。
- ・ 淡路の方々の温かみを再確認でき、地元に戻ってきてよかった。（島内出身者）
- ・ 地域活性化にもその街に合った雰囲気や地域の人々が望む街づくりを意識するのが大切。
- ・ 淡路島の温かく優しい人柄を体感し、よりよい街づくりをしていきたいと強く感じた。
- ・ それまでの研修で話したことのない同期とも交流を深めることができた。



淡路信用金庫新入社員研修、22名が参加した。「洲本市の地域活性化を考える」をテーマとし、チームに分かれて洲本市街地内で地域の人へヒアリング。各チームで考えた地域活性化案をプレゼン形式で発表した。

事業実績 淡路島クエストカレッジ
2024/4/11 淡路信用金庫新入社員研修
参加人数:22名



龍谷大学制作学部の1年生を対象に、48名が参加。
株式会社海空と連携し、海ごみ削減プロジェクト「さんぼdeごみ拾い」を実際に体験し、
“若者にもっと参加してもらうには？”をテーマにチームでディスカッションし、提案した。

事業実績

淡路島クエストカレッジ

2024/6/1 龍谷大学スタディツアー

参加人数:48名



武庫川女子大学との大学連携プログラムで、11名が参加。
山下さんが運営するシェアホースアイランドのファン獲得を
ミッションに、イベントを企画し、情報発信を行った。イベント当日には6名が参加した。

2024/9/18～11/27 武庫川女子大学シェアホースアイランドイベント企画プログラム

参加人数:11名

事業実績

淡路島クエストカレッジ



武庫川女子大学との大学連携プログラムに合わせて、初の個人募集を試みた。
SNSでの広報発信を行い、うち6名が個人募集型で応募した。
洲本市へのインバウンド誘致を増やすには？をミッションに、
三ノ宮と洲本市街地でフィールドワークを行い、提案プレゼン。全40時間のプログラム。

事業実績

淡路島クエストカレッジ

2024/11/2～12/14 インバウンド企画提案プログラム

参加人数:24名



武庫川女子大学との大学連携プログラム。6名中1名が個人募集で参加。

森の木ファーム株式会社の様々な事業を、担当者へインタビューし

WEB記事を作成するプログラムで、プロライターの宗和さんに講座を依頼。 2025/2/13～3/18森の木ファーム事業インタビュー&コラム化プログラム

プロから教わったコツを用いて、記事を書き上げた。4月上旬に、森の木ファームさんのホームページに掲載予定。

事業実績

淡路島クエストカレッジ

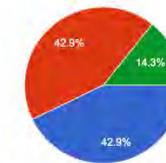
参加人数:6名



ツアーの内容は分かりやすかったですか？

グラフをコピー

7件の回答



- とても分かりやすかった
- やや分かりやすかった
- 普通
- やや難しかった
- 難しかった

上記について理由を教えてください

7件の回答

先生の解説が秀逸で、何を聞いてもすぐに答えてくれました。途中参加だったため、れぎや砂の違いなど、言葉などの事前知識をもう少しつけることができていれば、より理解も深まったかなと思うのが悔しい点です。

全く地質に興味ない人には、難しいかも！？

過去なことが起こってつくられた地層なのかの説明はわかりやすかったです。まわった順番も考えられていてよかったです。岩の名前は、どうしてもむずかしいので一般の人への伝え方は工夫が必要ですね。

専門用語はわからない部分があったけど、説明自体は噛み砕いて説明してくれていたのわかりやすかったです。

とても楽しかったが、基礎知識がない分理解できないところもあった。

最初から最後まで丁寧に説明してくれました。

都度どうしていた質問について、とても分かりやすく教えてくださいました。

ツアーの時間配分は適切でしたか？

グラフをコピー

7件の回答



- ちょうどよかった
- 少し長かった
- 少し短かった

事業実績

淡路島クエストカレッジ

2025/3/15 “地質学”でひも解く—淡路島モニターツアープログラム

参加人数:9名

日本大学地球学部に所属する大学生と、“地質”をテーマにしたモニターツアーを企画し、開催した。9名が参加。

新たな観光資源としての可能性と、今後も継続してツアーは開催予定。

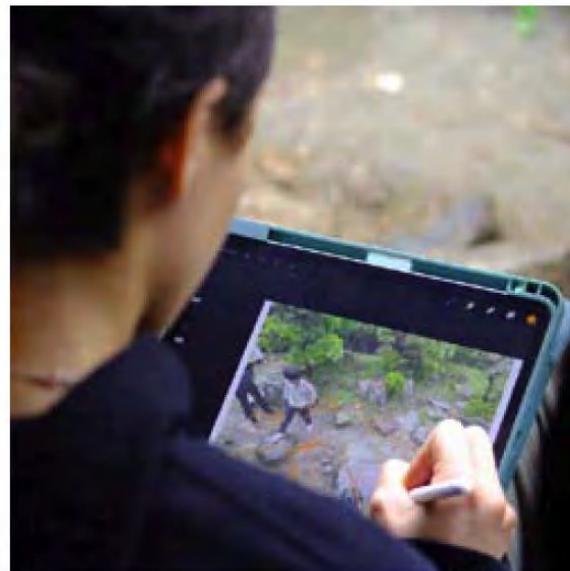
洲本木匠塾

2024年夏にスタート、今年本格稼働をはじめた

目的

学生が、地域（洲本）と地域（加子母）を繋げて活動する取り組み

- ・木匠塾は、**全国の建築学を学ぶ学生**で構成している学生団体
- ・その中でも岐阜県中津川市加子母で30年続く「**加子母木匠塾**」が、
初めて他地域で活動を展開する試み
- ・特徴は、専門性の高い大学生による実践的な活動をすること
建築に関するノウハウが地域に蓄積されるだけでなく、
継続的な地域との関わりが生まれることで、持続可能なまちづくりにもつながる
- ・今年度は約30人が関わっている



洲本木匠塾の活動の様子



洲本木匠塾の活動の様子

継続的な収益化が難しい。官・学・民三方良しになるには？

約2年間取り組む中で感じる課題感